

2023 8/12 Sat

災害伝承“語り継ぎ”探究サロン 第3回 「ケヤキの想い」朗読と 東日本大震災語り部 小野寺敬子さんのおはなし

ゲスト：小野寺敬子さん 協力：震災を読みつなぐ会 KOBE

日時：2023年8月12日(土) 13:30～15:30

開催方法：会場とオンライン(ZOOM)によるハイブリッド

実施会場：人と防災未来センター 西館 1F ガイダンスルーム



宮城県気仙沼市で語り部をする小野寺さんをお招きし、お話を伺います。

プログラム

小野寺さんは、宮城県気仙沼市で語り部として、東日本大震災で起こった出来事を伝える活動をされています。当センターが推める「防災100年えほんプロジェクト」の「第1回ものがたり(絵本の原案)募集」に、ご自身作の『ケヤキの想い』で応募され、入選なされたことがきっかけとなりました。小野寺さんが日頃からされている「語り」をお聞きする時間を過ごします。また、朗読ボランティアグループ「震災を読みつなぐ会 KOBE」のご協力いただき、作品『ケヤキの想い』の朗読もお届けし、その執筆につながる経緯なども伺います。小野寺さんの「語り継ぎ」についての想いや、また未来につたえたい大切なことなどについて、みなさまとともに考えます。

プロフィール

小野寺敬子(おのでらけいこ)さん

宮城県気仙沼市の「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」に勤務。

また、「けせんぬま震災伝承ネットワーク」のメンバーで、震災遺構「気仙沼向洋高校旧校舎」で起こった出来事や教訓を、語り部として伝える。

月命日の11日には「杉の下慰霊碑」にて、震災遺族として震災を伝える活動を続ける。2023年3月、防災100年えほんプロジェクト「第1回防災100年ものがたり募集」にて、応募作品が入選。

ものがたり作品 『ケヤキの想い』

2011年3月11日東日本大震災の実話を元にした物語。気仙沼市の岬に昔からたたく一本のケヤキの木。大きな津波が押し寄せた時の様子、その後悲しみと困難を抱えながらもこの地に生きていく人々の様子が、「ケヤキ」の目線で語られます。人々の営みに寄り添い見守るケヤキの眼差しとやさしいことばが印象的な作品です。

「防災100年えほんプロジェクト」のWEBサイト内、入選作品の公開ページで『ケヤキの想い』を読むことができます。 <https://bosai100nen-ehon.org/story/selection>



震災を読みつなぐ会 KOBE

あの日(1995年1月17日午前5時46分)を忘れないこれからもいつまでも…あのときに知った「命の尊さ・助けあいの大切さ・生きることの意味」をいつもみんなで思い起こしたい。あのときの勇気ある行動や貴重な体験を「読むこと」によって次の世代に伝えたい。

朗読を通して、経験や教訓を具体的に伝えることが、災害に備える力にもなる。

……こんな思いで活動を続けています。震災を知らない世代が増える中、新たに学び、ともに学び、神戸らしい防災授業のなかで、「震災の経験・復興の過程で得た教訓が心に届く・響く朗読」を心がけています。

(経緯・実績)

2005年12月発足。

学校の防災授業において、震災関係の体験記・記録等の朗読等をお届けする活動をしています。これまでに、小・中・高校、養護・支援学校など、延べ311校に向向き、95,000人以上に朗読をお届けして来ました。現在のメンバー22名。



参加方法:

特設サイト内ページからの申し込みフォームからお願いします。

>>> https://hitobou.com/event/summer/each/q_2023.html >>>

お申し込みいただいた方に、ZOOMのアドレスを開催日前日にメールでお送りします。



また、Facebookページにもアドレスを掲載します。

何らかの事情でメールが不達の場合は、こちらからご確認ください。

Facebookページ >>> <https://fb.me/e/4e3EKq2Jl> >>>

